

バンコクの風

ลมจากกรุงเทพฯ

日本学術振興会バンコク研究連絡センター 活動報告（2012 年 4 月～6 月）



左から Dr. Malee 同窓会理事、Dr. Busaba 同窓会長、当センター現地職員、娘さんのお宅のお手伝いさん、お孫さん、副センター長、娘さん、ご主人、センター長

2012 年 6 月 23-24 日、タイ JSPS 同窓会 Dr. Busaba Yongsmit 同窓会長よりお誘いをいただき、ご家族とタイ北部の Petchabun へ旅行しました。6 月末で任期を満了した竹内センター長の慰安を兼ねたもので、家族旅行に混ぜてもらえるというありがたい機会をいただきました。2 年間のセンター運営と同窓会支援に合格点をもたらったような嬉しい気分の 1 泊 2 日となりました。



7 月 1 日からは、山下邦明教授（元九州大学大学院言語文化研究院・院長）が、第 16 代目のセンター長として着任されています。

新センター長のもと、今後も東南アジアを舞台に、センター運営を行っていききたいと思います。

主な活動

4 月

3 日	日本大学一行 来訪	P. 3
11 日	JSPS バンコク新オフィス見学会	P. 3
12 日	NRCT との打合せ	P. 5
〃	ネパール Dr. Indra P. Tiwari 来訪	P. 5
25 日	関西大学バンコクオフィス開所式	P. 6

5 月

8 日	プリンス・オブ・ソンクラ大学にて事業説明会	P. 7
9 日	JSPS Workshop 開催 於プリンス・オブ・ソンクラ大学	P. 8
11 日	チェンマイ大学にて事業説明会	P. 9
16 日	タマサート大学 Mr. Sopon Thitasajja 講師来訪	P. 11
17 日	スリランカ出張 中央環境庁にて JSPS 事業紹介	P. 11
23 日	京都大学バンコク事務所移転開所式	P. 12
24 日	アセアン大学連合-京都大学シンポジウム	P. 12
29 日	岡山大学 阿部理事・副学長 来訪	P. 13

6 月

8 日	JSPS-NRCT セミナー開催 於コンケン大学	P. 13
11 日	洪水後の AIT を視察	P. 16
12 日	大分大学内田助教来訪	P. 16
13 日	森林総合研究所 酒井来訪	P. 17
〃	Asia-SEED バンコク事務所 兼 東京農工大学バンコク事務所 表敬訪問	P. 17
14 日	大分大学内田助教講演会	P. 17
15 日	日本大使館主催 科学技術連絡会	
18 日	カンボジア出張 カンボジア工科大学を表敬訪問	P. 18
26 日	タイ JSPS 同窓会理事会開催	P. 19
27 日	NRCT 表敬訪問	P. 20
28 日	GISTDA にてセンター長最終報告	P. 20
28 日	チェンマイの様子	P. 21
29 日	NSM 及び AIT を訪問	P. 21
30 日	竹内センター長 離任	

コラム あさひさんのタイ燦々 P. 22

コラム カイさんのタイご案内 P. 23

特集 写真で振り返る竹内センター長の軌跡 P. 24

■ 日本大学 廣岡課長補佐一行 来訪

<http://jsps-th.org/?p=2436>



左から

副センター長、

廣岡達郎 学務部教育推進課国際交流室課長補佐、

栗林健太 同職員

タイでの事務所開設も検討中とのことです。活動目的を明確に設定しているオフィスが軌道に乗っているケースが多いことをお伝えしました。

■ 新オフィス見学会を開催

<http://jsps-th.org/?p=2451>

2012年4月11日（水）、当センター事務所内会議室を主な会場として、日本学術振興会バンコク研究連絡センター新オフィス見学会を開催しました。

2010年12月7日の閣議決定「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」以来調整を続け、2012年3月17日にはオフィス移転を、3月19日からJASSOとの共用を開始したことを記念して、東南アジアにおける当センターの今後の役割及び使命を確認し、あわせてタイ国内の関係機関等との一層の連携強化を図ることを目的に、田淵エルガ JSPS 国際事業部参事（当時）とともに、近隣の関係機関から駐在代表者をお招きしての開催です。



前列左から、研修員、河井所長、田淵参事（当時）、関センター長、長谷川一等書記官。

後列左から、副センター長、川崎准教授、水元所長、田中次長、小林准教授、益田所長、内田所長（当時）、センター長、当センタースタッフ。

参加者は計 9 名で、機関英語名のアルファベット順に以下の通り。

水元伸一	宇宙航空研究開発機構（JAXA）タイ駐在員事務所・所長
長谷川哲雄	在タイ日本大使館（JE）一等書記官
内田 裕	国際交流基金（JF）バンコク日本文化センター・所長（当時）
田中章久	国際協力機構（JICA）タイ事務所・次長
益田 浩	日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所・所長
小林 知	京都大学（KU）東南アジア研究所・准教授
関 達治	大阪大学（OU）バンコク教育研究センター・センター長
河井栄一	東京農工大学（TUAT）バンコク事務所・所長
川崎昭如	東京大学（UT）生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター・准教授



JASSO との共用部分である閲覧室や
ろうか部分、JSPS 執務室などを順に紹
介し、一休みの後に参加者全員での意見
交換となりました。

関センター長より発議いただいたのは、
海外における大学戦略の難しさ、特に大
学間ネットワークの維持・ノウハウとい
ったところを JSPS がケアしてはどうか
という提案でした。これには、JSPS サ

ンフランシスコ・センターが取り組んでいる「サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワー
ク（Japanese University Network in the Bay Area 略称 JUNBA）」という先行例があり、関センタ
ー長もこれを引き合いに出されてのご発言でした。

この他、JSPS 論文博士号取得希望者に対する支援事業に関する、国はもちろん自然科学系と人文・
社会科学系における適性やニーズの違いなどが述べられ、この事業に対する潜在的なニーズの高さが
確認されました。

また、アジア各国における Joint Degree や Double Degree の進展具合から日本が取り残されつつあ
る危機感から、欧米先進諸国がそれぞれの大使館に擁しているような科学技術アタッシュの必要性が
訴えられたほか、タイ東南アジアについていえばこれまでの一方的に支援を行ってきた関係から、連
携・協働、さらには何らかの支援提供を受ける方向へ、といった大胆な戦略策定を行う機能の必要性が
訴えられました。

当センターとしては、まず具体的には、タイ国内の各大学訪問に際して事前にリクエスト・ペーパ
ー（仮）の作成を依頼することで、タイ大学側のニーズや希望のほかに、実現可能なレベルの分野を
探り当てていくという取り組みができるのではないかと考えています。

日本の機関が多いとされているバンコクにおいても、各機関より計 10 名を越える駐在員が一堂に会
し、改めて議論を行う機会というのは多くありません。今回こうした時間を設けることで、様々な分
野からの意見を聞くことができ、当センターとしてはまことに実り多い時間となりました。

今後とも関係各所との連携を深めながら、センター運営を行っていきたいと思います。

■ NRCT との定期会合

<http://jsps-th.org/?p=2445>



左から
研修員
現地スタッフ
副センター長
センター長
Ms. Pimpun 部長
Mr. Sawaeng 課長
Ms. Pawanee 職員
Ms. Arpar 職員

2012 年 4 月 12 日（木）、当センターメンバー全員及び大槻研修員の 4 名で NRCT を表敬訪問しました。
今年 8 月 24-28 日に Bangkok Convention Center にて開催予定の Research EXPO 2012 における、JSPS-NRCT セミナーについての打合せを行い、以下の通りの概要で合意に至りました。

JSPS-NRCT セミナー

開催日程：8 月 26 日（日）（日本の大学院入試を踏まえたもの）

午前：打合せ、昼食

午後：セミナー、夕食

招へい者：日本より 2 名、各講演者に対してタイ人コーディネーターを 1 名ずつ

講演時間：各 60 分。10 分間のタイ語による要約と、10 分間の質疑応答。

招へいについて：JSPS にて負担。人選についても JSPS にて行う。

■ ネパール Dr. Indra P. Tiwari 博士来訪

<http://jsps-th.org/?p=2448>



左から
副センター長
Dr. Indra P. Tiwari
センター長

ネパールでの事業紹介のお誘いをいただきました。
日程調整がつかず 6 月までに実現はされておりましたが、引き続き調整してきたいと思います。

2012 年 4 月 12 日（木）、タイの NIDA（National Institute of Development Administration：行政大学院大学）にお勤めの Dr. Indra P. Tiwari 博士が当センターを来訪されました。

Dr. Indra 博士はネパール出身で、過去に AIT（アジア工科大学院大学 Asian Institute of Technology）

で教職についておられたほか、JSPS 外国人特別研究員事業により 2001 年から 2003 年まで東京工業大学に滞在しておられました。

交通と物流の専門家で、タイ JSPS 同窓会 (JAFT: JSPS Alumni Forum of Thailand) の財務担当理事で、タイ物流省 (Office of Transport and Traffic Policy and Planning, Ministry of Transport) にお勤め (Chief, Transport Logistics Group) の Dr. Malee Uabharadorn の紹介により、2012 年 2 月 3 日に開催した論文博士号取得者へのメダル授与式および同窓会総会にもご参加いただいております。

今回の訪問は、ネパールでの JSPS 事業紹介のお誘いです。

ネパールには科学技術省 (Ministry of Science and Technology) 傘下に Council of Science and Technology (CST)、文部省 (Ministry of Education) 傘下に University Grant Commission (UGC)、その他 Agricultural Research Council (ARC) といった学術支援機関があり、この中でも特に UGC が大学への強い影響力を持っているなど、スリランカなど南アジアと同様の構造になっているようです。

ネパールには 1959 年の大学設置以来、現在は以下 5 つの国立大学があるほか、同数程度が設立予定とのこと。

Tribhuvan University (古豪の大学。現在も学生数トップ)

Kathmandu University (比較的新しく、国内トップとされている)

Pokhara University

Purbanchal University

Mahendra Sanskrit University

このうち Tribhuvan 大学及び Kathmandu 大学には博士課程があります。

大学進学率は適正年齢の 3 割ほどで、学費は部局によって異なりますが月あたり 8 米ドルほどからであるなど、比較的に低額に抑えられています。

過去には多くの学生が高等教育を受けにインドへ出ていたそうですが、昨今はより純粋に科学を求める姿勢から、インド外の高等教育や特に研究機会への需要の高まりが見込まれ、こういった背景から、当センターとしてはネパールにおける潜在的な JSPS への需要は高く、今後も極めて高まるものと判断しました。6 月中旬を念頭に日程調整を行っていく予定です。

なお、ネパールにおいては外交的な事柄はすべて National Planning Commission を経る必要があるなどの国内事情があり、Dr. Indra と連絡を取り合いながら、事業紹介会場などを選定していく予定です。

■ 関西大学バンコクオフィス開所式

<http://jsps-th.org/?p=2474>



左から

Assist. Prof. Dr. Pomthong Malakul 石油化学部長

Prof. Dr. Pirom Kamolratanakul 学長

楠見晴重関西大学学長

Assoc. Prof. Dr. Ratana Rujiravanit 石油化学部教員

関西大学がチュラロンコン大学石油化学部内にバンコク事務所を開設しました。

■ プリンス・オブ・ソンクララー大学にて事業説明会を実施

<http://jsps-th.org/?p=2484>



2012年5月8日（火）プリンス・オブ・ソンクララー大学（PSU: Prince of Songkla University）にて JSPS 事業説明会を実施し、若手研究者を中心に約 50 名の参加がありました。

これは、2011 年 12 月 14 日の PSU 表敬訪問にて当センターより提案申しあげたところ、研究教育担当副学長（Vice President for Research and Graduate Studies）である **Assoc. Prof. Dr. Chusak Limsakul** より快諾をいただいたことにより実現したものです。

冒頭にご挨拶いただく予定であった研究教育担当副学長 **Assoc. Prof. Dr. Chusak Limsakul** は学長就任の決定にともないご多用中であり、急きょ参加がみあわされましたが、**Dr. Sutham Niyomwas** 研究開発副部長（Deputy Director, Research and Development Office, PSU）に司会進行いただきました。



左から

Dr. Anchana

Dr. Perapong

Dr. Chalermkiat

JSPS の事業説明に加え、JSPS 事業経験者の体験談等を披露することで若手研究者の意欲を高めることを目的に、PSU 教員である **Dr. Anchana Prathep** 理学部助教（Assistant Professor, Faculty of Science, PSU）、**Dr. Perapong Tekasakul** 研究開発部長・工学部准教授（Director, Research and Development Office / Associate Professor, Faculty of Engineering, PSU）およびタイ JSPS 同窓会理事でもある **Dr. Chalermkiat Songkram** 薬学部助教（Assistant Professor, Faculty of Pharmaceutical Sciences, PSU）にご参加いただきました。

今回の発表者は、拠点大学交流事業への参加者、二国間交流事業の実施者、外国人特別研究員経験者と、三者三様の JSPS 経験を有しておられ、当センターとしても様々な JSPS 体験に触れることができる多彩な時間となりました。

また、そういった活発で新鮮な経験談に触発されてか、参加者からは具体的な申請時期はいつか、申請者は日本側かタイ側か、といった質問や、JSPS のカウンターパートである NRCT のファンドには 1 年ごとに評価があり、それに 4-5 ヶ月を要するため、日本側とタイ側で研究期間にずれが生じるといった問題点の指摘がなされるなど、とても積極的な発言が見られました。

この反応はバンコクはじめとする他地域とは若干異なるものであり、タイは広く、地域ごとに多様な性格を持つ国であることが再認識された次第です。「タイ」という一括りでの考え方では十分でないことは、東南アジアの国々を「東南アジア」という一言でまとめてしまう危険性と相似のものです。

当センターでは今後とも、バンコク外の大学訪問、タイ以外の国々の訪問を積極的に続け、適地適当な研究連絡活動を探っていきたいと思います。

■ プリンス・オブ・ソンクラ大学にてワークショップを開催

<http://jsps-th.org/?p=2655>



2012 年 5 月 9 日（水）、プリンス・オブ・ソンクラ大学（PSU: Prince of Songkla University）にて、ワークショップ「JSPS Workshop on blue, green and brown carbon monitoring by integrating geo-spatial technology and in-situ measurements」を開催しました。

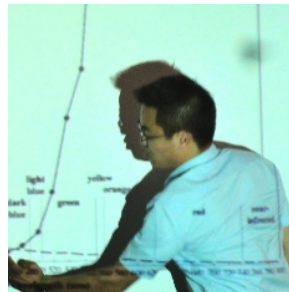
これは、前日の JSPS 事業説明会にも参加していただいた JSPS 同窓生の Dr. Anchana Prathep 理学部助教（Assistant Professor, Faculty of Science, PSU）からの強い要望があり、リモート・センシング技術を軸にした連携の可能性を探る目的で実現したものです。

ワークショップでは「青（海洋）」「緑（森林）」「茶色（土壌）」3つの”carbon”、いわゆる炭素循環をテーマに、Dr. Anchana、Dr. Kyaw Sann Oo 東京大学生産技術研究所研究員、Dr. 竹内渉東京大学生産技術研究所准教授・JSPS バンコク研究連絡センター長がそれぞれ発表を行い、その後、共同研究の可否、その領域等について意見交換がなされました。

このワークショップには理学部から 20 名程度の研究者が参加し、意見交換や質問が大変活発になりました。各々の研究に絡めて誰もが熱意を込めて語り、大変有意義なワークショップとなりました。

いわゆる国内トップといわれる大学あるいは首都圏の大規模大学に比べて、地方の大学は研究の質を問わず見過ごされがちですが、当センターとしては、そういった大学における研究の質や意欲が劣るものではないとの印象を強めています。

当センターとしては今後とも、事業紹介等を通じて JSPS の各制度をより活用していただくなどできる限りの協力を続けていきたいと思います。



左から

Dr. Kyaw Sann Oo

Dr. Anchana Prathep

Dr. Wataru Takeuchi

発表タイトルは以下の通り。

○A Rapid Response Assessment – Blue Carbon of UNEP, FAO, IUCN and CSIC

-Dr. Kyaw Sann Oo, Postdoctoral Researcher, IIS, The University of Tokyo (UT)

○Preliminary Studies in Seaweed and Seagrass as a Carbon Sink; Blue Carbon, Management and Conservation in Thailand

-Dr. Anchana Prathep, Assistant Professor, Faculty of Science, PSU

○Recent geo-spatial technologies for green and brown carbon monitoring

-Dr. Wataru Takeuchi, Associate Professor, IIS, UT / Director, JSPS Bangkok Office

○Demonstration of GPS photo database retrieval system by iPhone

-Dr. Kyaw Sann Oo, Postdoctoral Researcher, IIS, UT

■ チェンマイ大学にて事業説明会を実施

<http://jsps-th.org/?p=2648>



2012年5月11日（金）、チェンマイ大学（CMU: Chiang Mai University）にて、JSPS 事業説明会を実施し、若手研究者を中心に約80名の参加がありました。

これは、2011年10月11日のCMU表敬訪問にて当センターより提案申しあげたところ、教育担当副学長（Vice President for Academic and Educational Quality Affairs）である **Prof. Wipada Kunaviktikul** および研究教育担当副学長（Vice President for Research and Academic Services）である **Assist. Prof. Dr. Nat Vorayos** より快諾をいただいたことにより実現したものです。

JSPS の事業説明に加え、若手研究者の意欲を高めることを目的に、PSU 教員である **Dr. Sirikan Yamada** 医学部准教授（Associate Professor, Faculty of Medicine, CMU）及び **Dr. Pattara Khamrin** 医学部講師（Lecturer, Faculty of Medicine, CMU）より、JSPS 事業経験者として講演をしていただきました。



左 Dr. Sirikan Yamada

右 Dr. Pattara Khamrin

司会進行は日本語も堪能な **Ms. Phatcharakran Intanaga** 人文学部講師（Faculty of Humanities, English Department, CMU）に担当していただきました。

今回の説明会では、論文博士号取得支援事業及び外国人特別研究員事業についての体験談が語られ、参加者からも積極的に質問が挙がりました。

今後の計画として、Dr. Sirikan は日本医科大学での研究活動も視野に入れているとのことで、JSPS の事業終了後もこうして日本の研究者との協力関係を続けていただいていることは、日本の研究振興機関として大変喜ばしいことです。

当センターでは今後とも、両国の研究の橋渡し役となるべく事業紹介を続けていきたいと思います。

なお、説明会後は、チェンマイ大学主催で昼食会が催されました。講演者及び関係者で食事を囲みながら、洪水復興のあおりを受けて政府の研究大学プロジェクト（国内の9つの研究大学に特に予算を措置し、研究促進に役立てるもの）の予算が大幅減となり、チェンマイ大学に措置される予算もかなり減じたという話を伺いました。これと関係してお聞きしたことは、チェンマイ大学関係者のバンコクへの出張の多さです。月曜日の朝一番のバンコク行き飛行機は乗客数が少ないそうですが、そのほとんどがチェンマイ大学関係者であるためチャーター機と見まがうほどのこと。特に幹部職員で



ある Dr. Nat は一日のうちに2度バンコクへ赴くこともあるなど、中央政府との緊密な関係の維持は、地方大学にとって必要不可欠であると同時に、負担にもなっている様子がうかがえました。

昼食会後の記念撮影。ピンクの上着が Assist. Prof. Dr. Nat Vorayos 副学長

■ タマサート大学ソーポン講師来訪

<http://jsps-th.org/?p=2502>



左：センター長

右：Mr. Sapon Thitasajja タマサート大学商業会計学部組織
人材管理学科

当センターよりご紹介さしあげた福岡工業大学訪問について
の報告をしてくださいました。

社会人を対象としたコースで、政府関係機関の管理職を中心
としたメンバーでの日本における人材育成を視察されました。

■ スリランカ出張 中央環境庁での JSPS 紹介

<http://jsps-th.org/?p=2592>



中央女性が Mrs. Ellepola 中央環境庁所長

2012 年 5 月 17 日（木）から 19 日（土）まで、センター長および副センター長がスリランカに出張しました。同期間にスリランカ中央環境庁（Central Environmental Authority）にて開催中の湿地生態系観測技術研修会（Technology Development Training Program on optical and SAR data usage for wetland mapping for Central Environment Authority (CEA) of Sri Lanka and other stakeholders）に参加し、同国各省庁から参加している観測及び環境の政府関係者や研究者に対し、JSPS 事業のアピールを行うことが目的です。

これは、JAXA（宇宙研究開発事業団：Japan Aerospace Exploration Agency）による **SAFE プロジェクト**（Space Application for Environment：宇宙技術による環境監視）の一環として開催されたもので、当センターとしては、2011 年 3 月及び 2012 年 2 月のスリランカ出張により、各大学ではまだ研究に向ける余力が多くなく、主な研究機関の役割は政府機関・省庁がになっているものと判断し、今回の

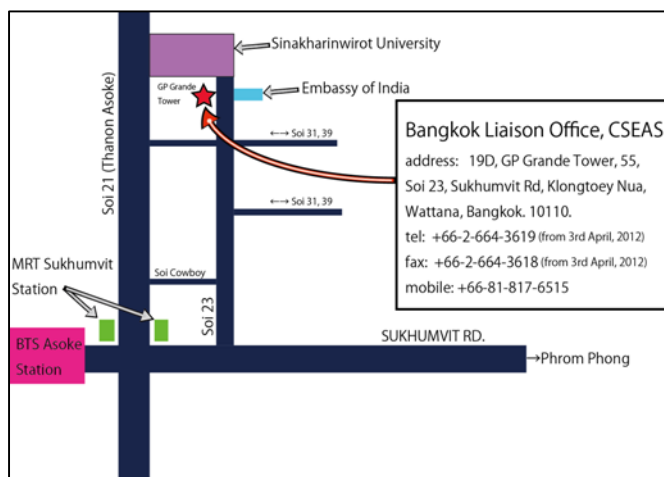
出張となりました。

研修会には 20 名ほどの関係者が出席しており、実際に PC を用いての講習が行われています。参加者は環境庁、観測局、運輸省などから構成されており、その表情は一様に真剣で、新技術の習得・向上に向けた意識の高さには驚かされるほどでした。センター長から JSPS の紹介が行われた後、ブローシヤを用いて副センターから各参加者に説明を行いました。同僚にも配るからと余部を求められるなど、ここでも予想外の嬉しい反応があり、スリランカの研究意欲の高さ、将来的な連携の可能性を実感する機会となりました。

なお、タイの親日ぶりは言わずと知れたことですが、スリランカについても同じことが言えます。それはサイエンスにとっては本質的な部分ではないとしても、長期的な協力を含んだ教育・研究活動全体を考える時、ひとつの重要な要素となるのではないかと、当センターでは考えております。

■ 京都大学バンコク事務所移転開所式

<http://jsps-th.org/?p=2600>



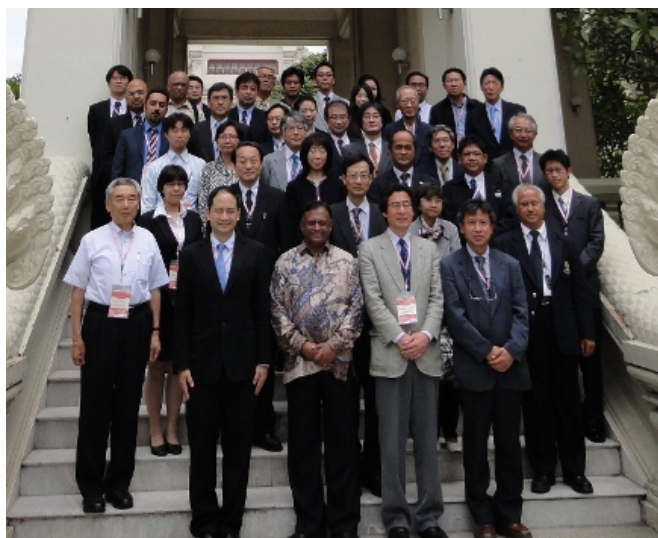
京大バンコク事務所の地図。

正確には、京都大学東南アジア研究所バンコク連絡事務所。

1963 年に開設されたタイにおける日本の大学事務所では老舗中の老舗です。

■ アセアン大学連合-京都大学シンポジウムの開催

<http://jsps-th.org/?p=2614>



最前列左より

Dr. Choltis Dhirathiti AUN 事務局次長
Prof. Ramaswamy Sudarshan 国連開発計画
西阪昇 京都大学理事・副学長
河野泰之 京都大学東南アジア研究所・教授

2011 年 3 月のワークショップに続く 2 度目の開催。京都大学としては、AUN とのパートナーシップに基づいて、人間の安全保障に関する人材育成を目的に、大学の世界展開力強化事業への申請を行うということです。

■ 岡山大学より阿部理事・副学長来訪

<http://jsps-th.org/?p=2608>



左から

小川教授秀樹国際センター国際交流部門長

副センター長

阿部宏史理事・副学長

吉田裕美国際センター助教

大学の世界展開力強化事業への申請に向けたタイ側大学との調整の際にお立ちよりいただきました。

■ コンケン大学にて JSPS-NRCT Seminar を開催

<http://jsps-th.org/?p=2824>



2012年6月8日(金)から10日(日)まで、コンケン大学(KKU: Khon Kaen University)にて JSPS-NRCT Seminar “**Anthropogenic Greenhouse Gases Observation from satellite observation and in-situ Measurements**” (人間活動由来の温室効果ガスの衛星観測及び実地観測(仮))を開催しました。参加者は約80名。

セミナーは、初日の研究発表と2日目の東北部ピーマイ(Phimai)及び3日目コンケン(Khon Kaen)におけるメタンのサンプリング調査のデモンストレーションで構成され、日本より以下4名の講師をお招きしました。

林田佐知子 奈良女子大学理学部 教授

今須良一 東京大学大気海洋研究所 准教授

小野朗子 奈良女子大学理学部 助教

関山絢子 東京大学生産技術研究所 助教



林田教授



今須准教授



小野助教



関山助教

コンケン大学からは以下2名の講師が参加されたほか、農学部長である **Prof. Dr. Anan Polthanee** よりご挨拶をいただきました。また、日程調整の関係で当日の参加は見合わされましたが、NRCTの **Prof. Dr. Soottiporn Chittmittrapap** 事務局長からも開催に際してのメッセージをいただいております。

Dr. Patcharee Saenjan, Associate Professor

Land Resource and Environment Section, Department of Plant Science and Agricultural Resources, Faculty of Agriculture, KKU

Dr. Kritapon Sommart, Associate Professor

Department of Animal Science, Faculty of Agriculture, KKU



左から

Prof. Dr. Anan 農学部長

Dr. Patcharee 准教授

Dr. Kritapon 准教授

2, 3日目のサンプリング調査では、奈良女子大学の**林田教授**、**小野助教**、それに修士2年の**石川沙穂**さんが中心となって、ピーマイ周辺で3地点4回、コンケン周辺で4地点4回のサンプル採集を行い、コンケン大学からの参加者に対して実技指導を行いました。



奈良女子大学理学部情報学科では、**林田教授**を代表者として、環境省による環境研究総合推進費（The Environment Research and Technology Development Fund (ERTDF) FY2012-2014）を取得しており、今回のサンプル調査は、当該研究課題である”Characterization and Quantification of global methane emissions by utilizing GOSAT and other satellite sensors（GOSAT データ等を用いた全球メタン発生領域の特性抽出と定量化）”における現地観測地点の選定の一環としても生かされる見込みです。

また、東京大学**今須准教授**は、文部科学省による大学発グリーンイノベーション創出事業「グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス（GRENE: Green Network of Excellence）」の研究代表者を務めており、今回の発表はその進捗報告を兼ねる形

となりました。



としたセミナーであり、2つの性質は微妙に異なります。

当センターではこの2年間に教育省が指定する9つの研究拠点大学をすべて訪問し、研究担当副学長等との面談を重ねました。その結果として、地方の大学が研究の質を問わず見過ごされがちであり、しかし、そういった大学における研究の質や意欲が劣るものではないとの印象を強めてきました。今回のセミナーが、コンケン大学の研究者から学生まで70名を超える参加者を得、また、GRENEやERTDFなど日本トップクラスの研究プロジェクトの代表者が手ごたえを感じたことは、我々の印象をさらに強めると同時に裏付けるものとなったと理解しています。中央地方を問わず各大学の”cutting-edge”を見出していくことの重要性を再認識しました。



また、今回のセミナー実施により、表敬訪問→事業紹介セミナー開催→学術セミナー開催、という一連の流れを完結させた形になります。当センターではこれを健全なステップアップであると理解しており、引き続き、バンコクを中心としながらもタイ全土を舞台として科学技術の振興に努めていきたいと考えております。

初日の発表は以下の通り。概要は当センターウェブ上でご覧いただけます。

- Greenhouse gas measurements from space using a infrared sounder aboard Greenhouse gases Observing SATellite (GOSAT)
 - Dr. Ryoichi Imasu, Associate Professor, Atmospheric and Ocean Research Institute, University of Tokyo
- Characteristics of methane concentration over Monsoon Asia: Insight from satellite observations
 - Dr. Sachiko Hayashida, Professor, Department of Information and Computer Science (ICS), Nara Women's University (NWU)
- Sulfate mitigating methane in paddy field soils and impact of biochar and rice straw use in rice cultivation on methane emission
 - Dr. Patcharee Saenjan, Associate Professor, Land Resource and Environment Section, Department of Plant Science and Agricultural Resources, Faculty of Agriculture, KKU
- Methane emission from different vegetation types

-Dr. Akiko Ono, Assistant Professor, ICS, NWU

○Methane measurement and mitigation in Tropical livestock

-Dr. Kritapon Sommart, Associate Professor, Department of Animal Science, Faculty of Agriculture, KKU

○Review of Global Fire Emissions Database (GFED) and estimation model of carbon emission from biomass burning

-Dr. Ayako Sekiyama, Assistant Professor, Institute of Industrial Science, UT

○Estimation model of carbon emission from biomass burning

-Dr. Wataru Takeuchi, Associate Professor, IIS, UT

■ 洪水後の AIT を視察

<http://jsps-th.org/?p=2748>



2011 年 10 月、バンコクを襲った大洪水により（市内中心部は被害なし）、AIT はその敷地全体が 1 メートル以上水につかりました。そのため、教員宿舎、学生寮、図書館、校舎などすべての建物が 1 階部分は使用不能になり、数ヶ月間の閉鎖を余儀なくされました。その後、一時的にホアヒン (Hua Hin) にあるスタムフォード大学 (Stamford University) の一部を借りて授業を再開するなどしていました。

現在はすでに授業が再開され学生も戻っていますが、1 階部分を中心に復興はまだ道半ばで、鉄筋がむき出しであったり、天井がめくれている状態でした。一日も早い復旧と復興を期待したいと思います。

■ 大分大学 内田助教来訪

<http://jsps-th.org/?p=2743>



左 センター長

右 内田智久 大分大学医学部助教

自身がご講演される、バムルンラード・インターナショナル病院 (Bumrungrad International Hospital) 主催の医療セミナーへご招待いただきました。

■ 森林総合研究所 酒井研究員が来訪

<http://jsps-th.org/?p=2740>



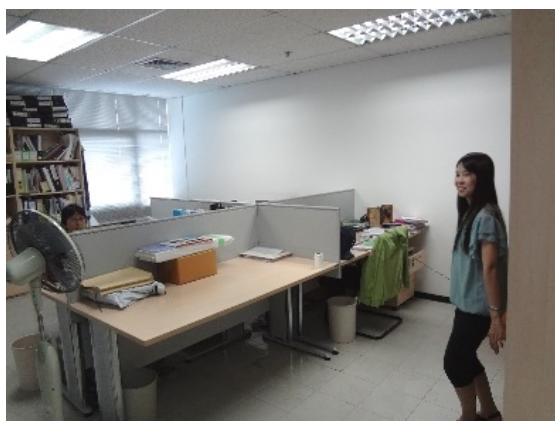
左 センター長

右 酒井正治 森林総合研究所研究員

タイとの長い研究協力経験をお持ちで、今回は JSPS-JICA の科学技術研究員派遣事業への申請についての情報収集をされました。アイソトープを用いた違法伐採木材の同定を考えておられます。

■ Asia-SEED バンコク事務所を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=2754>



大槻研修員の研修中の本務先でもあります。

Asia-SEED（アジア科学教育経済発展機構）と慶応大学が一つのオフィスをシェアしており、Asia-SEED オフィスが東京農工大バンコク事務所を兼ねているとのこと。

近く移転される予定です。

■ 大分大学 内田助教講演会に参加

<http://jsps-th.org/?p=2762>



過日お招きいただいた講演会に参加しました。

医療は在留邦人にとっても関心の高い分野。

100 人の参加者を前に JSPS の名前を挙げていただきました。

■ カンボジア出張 カンボジア工科大学を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=2774>



左から

副センター長

Dr. CHUNHIENG Thavarith 副学長

Dr. OM Romny 学長

センター長

2012年6月19日（火）、センター長及び副センター長がカンボジアへ出張し、カンボジア工科大学（ICT: Institute of Cambodia of Technology）に、**Dr. OM Romny** 学長（Director General）及び**Dr. CHUNHIENG Thavarith** 研究担当副学長（Deputy Director General in charge of Cooperation and Research）を表敬訪問しました。

ICTは元々はロシア（当時のソ連）の支援により設立され、ロシアの撤退後はフランスより支援を受けているということです。学生数は約3,000人。カンボジア国内では工学系トップの大学です。Dr. OM 学長は北海道大学で学位を修めたあと北見工業大学でポスドクとして勤務していたということで、日本語も話されます。

会談の席では、センター長より JSPS 及びその事業について説明を行いました。非常にこまめに質問

を挟まれ、研究・教育環境の改善に並々ならぬ関心を持っておられることが分かります。研究面としては、JSPS の Core-to-Core など、マッチングファンドを求めるものについては、カンボジアの国全体で大学・研究予算はかなり限られており対応のしようがないという実態がうかがえました。教育面については、日本工営社と人材育成について MOU を締結したり、金沢大学の JENESYS プログラムによって学生を派遣するなど、日本との関係を深めつつあります。



この他、聞き取り概要は以下の通りです。

- 大学は教育省傘下。科学専門の省庁はなく教育省が担当している。UGC などの中間的な機関はない。海外大学等と協定を締結に、特段の許可や指示を仰ぐ必要はない。
- ICT は国内最高の工学系大学。農学は Royal Univ. of Agri. がトップなど専門が分かれている。
- ICT の学生数は約 3000 人。女性 3 割程度で、女性の授業料は男性の半額とされている。
- 大学暦は 10 月-2 月、2-7 月の 2 期制。7-10 月は休講。
- 授業は基本的にフランス語で行われることとされているが、実際には英語で授業が行われていることが間々あるようである。
- 教員の多く（60%以上）は外国、特にフランスで学位を取っている。

- ・金沢大学との連携が進んでおり（JENESYS プログラムによる）、ICT 内にリエゾンオフィスを置くことも検討されている。
- ・2011 年、日本工営社と人材育成に関する MOU を締結している。
- ・JICA 事業により北大、東大、九大へ学生派遣を行ったことがある。
- ・カンボジア全体で大学・研究予算はかなり限られており、マッチングファンドを求められると対応のしようがないという実態がうかがえる。
- ・フランスによる支援が入っており、現在では École Polytechnique との協定により ICT 用に 3 席の派遣枠が用意されている。
- ・ただし、2000 年ころからフランスから ICT への機材等の支援は滞っている。
- ・韓国による支援も入っており、遠隔教育関連の機材が大規模に導入された。
- ・工学系のトップ大学であることもあり、現在、各国による支援が急速に入りつつある。

当センターとしては引き続きアセアン各国での事業広報・情報収集を続け、日本の大学のより幅広い国際化に貢献していきたいと思っています。

■ 第 8 回 JSPS タイ同窓会理事会の開催

<http://jsps-th.org/?p=2880>



左から、
副センター長
山下次期センター長
センター長
Dr. Malee 財務担当理事
Dr. Busaba 会長
Dr. Jiraporn 接遇担当理事
Dr. Boonchai 事務局担当理事

2012 年 2 月 3 日に開催された同窓会総会の議事録が提出され、概要、以下の報告を受けました。

- ・同窓会名を JSPS Alumni Forum of Thailand (JAFT) から **JSPS Alumni Association of Thailand (JAAT)** に変更した
- ・同窓会 bylaw が改定され、チャトチャック地区政府に正規登録の申込みを行った。
- ・理事会メンバーを 12 名から以下の 9 名に変更した
 - Dr. Busaba Yongsmith President
 - Dr. Paritud Bhandhubanyong Vice President
 - Dr. Boonchai Techaumnat Secretariat
 - Dr. Malee Uabharadorn Treasurer
 - Dr. Jiraporn Chauvalit Receptionist
 - Dr. Pornpen Pathanasophon Registrar
 - Dr. Porphant Ouyyanont Public Relation

viii. Dr. Sunee Mallikamarl Executive Committee

ix. Dr. Chalermkiat Songkram Executive Committee

・ 地区政府への登録申込みには、上記理事会メンバーにカセサート大学の Dr. Orasa Suksawang 准教授を加えた 10 名のリストを用いた。ただし、Dr. Orasa は理事ではない。

・ 同窓会ロゴを右のものに変更した。



この他、前回理事会（1 月）以降の当センターの主な活動が竹内センター長より報告され、理事会より活発な働きぶりに称賛の言葉をいただくと同時に、6 月末日で竹内センター長が任期満了を迎えるにあたって別れを惜しむ言葉をいただきました。

■ NRCT を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=2887>

2012 年 6 月 27 日（水）、当センターのメンバー全員で NRCT を表敬訪問しました。山下次期センター長の自己紹介の後、竹内センター長より、JSPS-NRCT セミナーに招へいが決まった日本からの講演者について説明を行い、NRCT からの了解を得られました

その後、NRCT の厚意により、竹内センター長と山下次期センター長の歓送迎会を兼ねた昼食会が催され、**Prof. Dr. Soottiporn Chittmittrapap** 事務局長及び **Dr. Jintanapa Sobhon** 社会科学研究顧問 (Advisor on Social Science Research) がご参加くださいました。研究顧問は NRCT 内で事務局長、事務次長に次ぐポジションで、現在は国際部の監督も兼ねているとのこと。Prof. Dr. Soottiporn 事務局長に至っては、協定書の調印式があるので途中退席するという大変お忙しい状況のなかのご参加でした。



この 2 年間は、奇しくも **Prof. Dr. Soottiporn** 事務局長の着任とほぼ同時に始まりました。当センターは JSPS と NRCT とのより良好な関係構築のために努力してまいりましたが、NRCT には常にそれと同等かそれ以上の親しみと懐の深さで温かく迎えていただいたように思います。

当センターとしては、山下次期センター長の就任以降も引き続き、この良好な関係を維持し高めていけるよう努力を続けていきたいと思っています。

■ GISTDA セミナーでの招待講演

<http://jsps-th.org/?p=2898>

2012 年 6 月 28 日（木）、バンコク市内 TK Palace Hotel にて、タイ地理情報・宇宙技術開発機関(GISTDA: Geo-Informatics and Space Technology Development Agency) 主催の災害リスクマネジメントへの宇宙技術の応用に関するセミナー (**Seminar on Utilization of Space Based Technologies for Disaster Risk Management**) が開催され、当センターよりセンター長が講師として参加しました。

これは、昨年 10 月の洪水を機に、リモートセンシングや地球観測などの宇宙技術が災害の予防や被

害低減に資することが改めて着目され、その技術向上および人材養成を目的に GISTDA が公共・民間の関係者を対象に開催するものです。竹内センター長は講師としての招待を受けての参加となりました。

なお、GISTDA は竹内センター長にとってこの 2 年間の研究カウンターパートでもあります。そのため、今回は自身の研究発表・技術指導とともに、2 年間の研究活動報告を兼ねたものとして、以下 4 本の発表を行いました。

- Utilization of space based technologies for disaster risk management
- Forest fire monitoring and forest cover mapping in Thailand
- Potential drought monitoring over agricultural area in Thailand
- Flood monitoring of Chaophraya river from 1987 to 2011 by microwave remote sensing

当日の参加者は 150 名ほどで、講演会後は GISTDA を管轄する科学技術省 (MOST: Ministry of Science and Technology) 事務次官との会談の場が設けられ、JSPS の紹介及び宇宙技術の災害対策への応用についてブリーフィングを行いました。

■ 拓殖大学 海老原タイ事務所設置準備室長の来訪

<http://jsps-th.org/?p=2910>

2012 年 6 月 28 日 (木)、拓殖大学のタイ事務所設置準備室長で、チェンマイを拠点にしておられる海老原智治氏が、当センターを訪問されました。

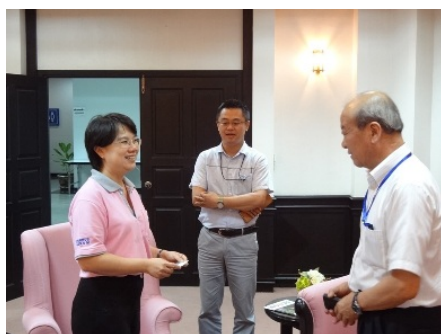
拓殖大学では、日本語教育を中心としたタイでの学生リクルートや、タイ国内での日本語教育のさらなる普及を考えておられ、現在、チェンマイ大学内に拓殖大学の事務所を設置するかの見極めのため、バンコクでの情報収集に関係各機関を回っておられるとのこと。

チェンマイ大学では先週中に新学長の選手が行われ、これに伴って副学長の人選も行われているということです。11 月ごろをメドに新体制が固まる見込といった情報提供をいただきました。

当センターとしては、今後の事業計画・活動に生かしていきたいと思います。

■ NSM 及び AIT への訪問

<http://jsps-th.org/?p=2932>



左側女性が Ganigar Chen 国立科学博物館科学普及部部長 (Director, Office of the Public Awareness of Science, NSM)



中央男性が
Dr. Pichai Sonchaeng
国立科学博物館館長 (President, NSM)



中央が川崎准教授



あさひさんのタイ燦々



タイの路地裏を歩いていると、何もない道の端にご飯が置いてあることがあります。円い皿に炊いたお米とおかずが乗っている、定食のようなものです。犬の餌にしては丁寧に盛ってありますし、動物によって荒らされた形跡也没有ありません。これが何であるか、ご存知でしょうか？

実はこれ、厄除けのためのお供え物なのです。タイでは家人に良くないことが起こった場合、悪霊の仕業と考え、これ以上悪いことが起こらないようにお供え物をするのです。ですので、このお供え物を見つけても触らずに神妙な気持ちで避けて通らねばなりません。縁起の良いものではないため、犬や猫も滅多に手をつけないといえます。お供えにいたずらをした人がひどい目に遭ったという例もあるそうです。

大都市バンコクでこのような風習を憶えている人は、最近少なくなっているといいますが、私の家のそばではたまに見かけます。

タイの建物には大抵廟や祠が設置してあり、お花や線香、食べ物が供えてありますが、これも仏さまではなく精霊を祭っています。仏教の国として有名なタイにはこのような民間信仰もしっかり並存しており、興味が尽きることはありません。



サーミットタワーの廟



お供え物近景

※ 大槻朝比さんは 3 月途中から大学独自の研修プログラムでバンコクに滞在中の東京農工大学の職員さんです。当センターの業務にも参加してもらい、貴重な戦力として活躍中。

そんな大槻さんにバンコクについて書いてもらいました。



カイさんのタイご案内



先月、友だちと **Asiatique the Riverfront** へ行ってきました。チャオプラヤ河岸にできた今バンコクで一番アツいショッピング・ゾーンです。昔 Hans Nille Anderson 氏のチーク材の倉庫として使われていた場所を Thai Charoen Corporation Group が再開発し、12 万平方キロメートルの敷地に、1500 店舗と 40 の飲食店からなる 10 棟の建物があります。

4 つのエリアに分かれていて、**Chareonkrung** エリアは「近代化の道」を象徴する場所になっていて、パフォーマンス、伝統人形劇、ニューハーフショーで有名なカリプソ、それにハンドクラフトやインテリアなどのお店があります。

Town Square エリアはタイと西洋のテイストをミックスしており、レストランやバーが並びます。イベント会場としても使用予定。

Factory エリアは、タイの産業振興時代をもチークにした、ファッション・ゾーンです。キッチュなものが所狭しと並びます。

そして、**Waterfront** エリアがアジア・ティークのメインエリアで、商業地としてのバンコクから観光都市バンコクへの変遷を色鮮やかに飾ります。コンサートやニューイヤール・カウントダウンなど大型のイベント会場として使われます。

ショッピング好きの皆さん、一緒にどうですか？

営業時間は 17 時から 24 時まで。年中無休です。

http://www.thaiasiatique.com/en/getting_here.php



写真で振り返る竹内センター長の軌跡

<http://jsps-th.org/?p=2781>

2012 年 6 月 30 日（土）、バンコク研究連絡センター・2010 年・2012 年センター長である竹内渉センター長（東京大学生産技術研究所・准教授）が 2 年の任期を終えて退任されました。そこで、在任中の竹内センター長の歩みを、セミナー等の記念写真とともに振り返りたいと思います。



2010 年 8 月 28 日、JSPS-NRCT セミナー@Research EXPO 2010

<http://jsps-th.org/?p=152>

2010 年 7 月の着任から 1 ヶ月余りの準備期間でしたが、**山海筑波大学教授**、**藤野東京大学教授**、**平山長崎大学教授**という COE リーダー 3 名をお招きしました。この、初めての共催事業の成功により、NRCT から確かな信頼を勝ち得、この後、**Prof. Dr. Soottiporn** 事務局長をはじめとする NRCT との厚い親交と協力関係が始まりました。



2011 年 1 月 6-7 日、JSPS 国際フォーラム CCMA

<http://jsps-th.org/?p=732>

着任後初の、そして最大の研究集会を開催。日本から約 10 名、アジア各国から約 10 名の気候変動分野における有力研究者をお招きし、2 日間に渡って先端的な研究討議を行いました。東南アジアからの研究発信ができたという意味で、JSPS 海外センターの本懐を果たしたともいえます。また、着任半年にあたるこの成功により、この先のセンター運営に一定の自信と見通しをもつに至りました。



2011 年 2 月 3 日、JSPS タイ同窓会ワークショップ Bio-char

<http://jsps-th.org/?p=972>

2010 年 2 月に発足したばかりの JSPS タイ同窓会。**Dr. Busaba** 同窓会長のリーダーシップにより、研究活動の地域における実践を試みました。立命館大学から**柴田教授**、**鐘ヶ江教授**の 2 名をお招きし、我が国の大学の力も借りながら、タイにおける JSPS 同窓会のあり方に一定の方向づけを果たしたと言えるでしょう。



2011年2月4日、論博メダル授与式 兼 第2回 JSPS タイ同窓会総会

<http://jsps-th.org/?p=649>, <http://jsps-th.org/?p=941>

2003年以来、毎年 NRCT との共催で続けられている論博メダル授与式。10名の授与対象者のうち7名の参加を得て瑞々しい博士論文発表を分かち合いそれを祝福するとともに、今回初めて日本大使館からゲストをお招きしたことで、タイ-日本社会における JSPS 同窓会のより深い根づき、定着、発展へと至る道筋を模索しました。

2011年3月1-5日、スリランカ出張 <http://jsps-th.org/?p=988>



ベトナム、シンガポール、バングラデシュ、ラオスに続き、初年度最後の海外出張としてスリランカを訪れました。工学系国内トップのモラトゥワ大学に JSPS 同窓生を訪ね、まずは緩やかなものから同窓生間でのネットワーク作りを提案依頼し、スリランカにおける同窓会活動に端緒をつけました。また、国内大学に対して大きな権限を持つ UGC に議長を訪ね JSPS ネットワークの萌芽をご紹介。ボトムとトップ、両面からの働きかけは戦略的なセンター運営の面目躍如です。



2011年6月21日、BRIDGE Fellowship 報告会 兼 JSPS 事業紹介セミナー@カセサート大学

<http://jsps-th.org/?p=1186>

タイ初の BRIDGE Fellow である **Dr. Busaba 同窓会長**に、その長年にわたる日本との研究経験を、所属大学であり国内9拠点大学に選ばれているカセサート大学で若手研究者に披露いただきました。JSPSの予想外の、しかし一方で当然ともいえるタイ国内における知名度の低さを乗り越えるべく、主要大学における事業紹介セミナーをここから開始しました。



2011 年 7 月 21 日、JSPS 事業紹介セミナー@タマサート大学

<http://jsps-th.org/?p=1299>

事業紹介セミナーの開催は、まずは副学長など幹部職員への表敬訪問を経て、全面的な協力を取りつけることから始まります。カセサート、チュラロンコン、タマサート、マヒドン、キングモンクットへと立て続けの表敬訪問とセミナー開催が繰り返される夏でした。日本上空での台風発生により飛行機が飛びたらず、ここでは田邊副センター長による事業紹介となりました。



2011 年 7 月 29 日、JSPS 事業紹介セミナー@マヒドン大学

<http://jsps-th.org/?p=1342>

一部大学ランキングでは国内最大のチュラロンコン大学をもしのぐマヒドン大学へは、大阪大学名誉教授でマヒドン大学より名誉博士号を授与されている大阪大学バンコク教育研究センターの関センター長のご紹介で学長をお訪ねし、後日、理学部でのセミナー開催の運びとなりました。海外で強く意識されることは、この個々人への知識・ネットワークの集中です。



2011 年 8 月 27 日、JSPS-NRCT セミナー@Research EXPO 2011

<http://jsps-th.org/?p=1631>

着任後 2 度目の本セミナーでは、昨年に続いて山海筑波大学教授、それに JSPS-JICA の枠組みでタイに派遣されている坂井新潟医療福祉大学准教授という医学系の研究者 2 名をお招きしました。すでに時間の問題ともいえるタイの高齢社会突入に一石を投げようとする NRCT の意向を十分に汲みとることで、主催者・発表者・一般参加者のすべてが満足する貴重な時間とすることができました。



2011 年 10 月 11 日、チェンマイ大学表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=1869>

タイ文部省は国内に 9 つ研究拠点大学を指定しています。チュラロンコン、カセサート、タマサート、キングモンクットトンブリー、マヒドン、チェンマイ、コンケン、スラナリー、プリンスオブソンクラ（順不同）のうち半数がバンコクに立地しますが、地方 4 大学を含めてすべてを表敬訪問しました。アポ取りを含め、国内出張時の Ms. Aunchalee 通称カイさんの働きは偉大です。迎賓室のような会場に上着

なしで招かれたことは、冷や汗ものながら今や良い思い出となりました。



2011 年 10 月 15 日、JSPS-NRCT セミナー「社会科学と日本の大学」

<http://jsps-th.org/?p=1581>

科学というと自然科学に偏りがちなテーマ設定を見直し、東京大学より目黒教授と佐藤准教授、京都大学より玉田教授と片岡准教授という、社会科学分野で活躍する研究者をお招きしました。時まさに洪水迫る中、タイ社会をめぐる一般参加者との白熱した議論は講演者を驚かせるに十分で、すべての科学をカバーする JSPS として、その存在感を十分にアピールしたといえるでしょう。

同時に、この頃より独立行政法人改革を強く意識。大学との連携を強める一環として、JASSO タイ事務所を演者としてお招きするとともに、タイに事務所を構える日本の大学にポスター作製を依頼。20 枚に及ぶ統一様式ポスターはオフィスのほか、ホームページ上にも掲示されています（その後、JSPS の大学連携型成果目標達成法人への移行が明示されました）。

http://jsps-th.org/?page_id=1782



2011 年 11 月 8-9 日、JSPS 事業紹介セミナー@コンケン大学

<http://jsps-th.org/?p=1953>

洪水禍のバンコクを逃れ東北部コンケンへ。JSPS タイ同窓会員 Dr. Sukanya のお招きを受けての開催となりました。2015 年のアセアン経済共同体実現を前により特色ある研究大学への移行を進めるなど、痛いほどの危機感を改めて実感。その一方で家族的な人の温もりは健在で、業務出張でありながらもまるで帰省の旅路のように、ほっとできる嬉しさに包まれました。



2012 年 1 月 10 日、BRIDGE Fellowship 報告会 兼 JSPS 事業紹介セミナー@国立がん研究所

<http://jsps-th.org/?p=2066>

2011 年度の BRIDGE Fellow である Dr. Danai に、所属機関である国立がん研究所にて、東京大学への再訪について報告いただきました。2 度目の応募で論博事業に通った経験も交えていただき、繰り返し何度も挑戦し続けることの重要性を再確認。治るまで治し続ける、医学という科学の特徴かと考える機会になりました。



2012年2月3日、論博メダル授与式 兼 第3回 JSPS タイ同窓会総会

<http://jsps-th.org/?p=2149>, <http://jsps-th.org/?p=2251>

ジュゴンの生態研究、途上国における知的財産権、琴の研究という、まさに自然・社会・人文科学そろい踏みのメダル授与式となりました。同窓会総会では仁平大阪大学教授に、その長年にわたる JSPS を交えたタイとの関わりをご披露いただき、国際連携において、核となる人格者の発掘・育成がいかに大切かを痛感した次第です。研究は人なり。



2012年2月24-25日、日本-バングラデシュ国交40周年記念 バングラデシュ JSPS 同窓会科学シンポジウム「社会のための科学」

<http://jsps-th.org/?p=2328>

2011年度中に JSPS 本部より所掌を移管された JSPS バングラデシュ同窓会。その第3回シンポジウムは、日-バン国交40周年を記念する盛大なものとなりました。日本からは木村文部科学省顧問、五十嵐東京大学教授、内田東北大学教授を招へい。カウンターパートとして付き合いの浅いバングラ側との連携は体力・精神力とも払底

する2日間でしたが、センター機能としては一つの到達点に至ったように思います。



2012年5月8日、JSPS 事業紹介セミナー@プリンスオブソクラ大学

<http://jsps-th.org/?p=2484>

1年がかりのオフィス移転を了えるやいなや、2012年度より本務先での入試担当となり、在タイ時間に大幅な制限がかかりました。そんな中、南部プリンスオブソクラ大学と北部チェンマイ大学へ、タイ縦断セミナー・ツアーを敢行。4月よりセンター独自に受入れた東京農工大学の大槻研修員も同行です。時間と人員の有効活用は当センターにとって常に喫緊の課題であり続けました。



2012年5月9日、JSPS ワークショップ@プリンスオブソクラ大学理学部

<http://jsps-th.org/?p=2655>

青・緑・茶。3つの炭素循環の統合的研究を模索するワークショップを開催。バンコクの大規模大学に比べ、地方の大学がその研究の質を問わず見過ごされがちであることを実感しました。東京大学から Dr. Kyaw Sann Oo を招へい。深夜まで及ぶ筋書きなき研究談議に花を咲かせたのは、思えば久しぶりとのこと。



2012 年 5 月 11 日、JSPS 事業紹介セミナー@チェンマイ大学

<http://jsps-th.org/?p=2648>

タイ第 2 の都市チェンマイ。月曜朝のバンコク便はチェンマイ大学チャーター便かと思まがうほど大学関係者で占められ、幹部職員に至っては一日に 2 度バンコクへ赴くこともあるということです。他国とはいえまだ見ぬ大学運営の厳しさに触れ、今、研究者であることへの覚悟に改めて身を引き締めておられました。



2012 年 6 月 8-10 日、JSPS-NRCT セミナー@コンケン大学

<http://jsps-th.org/?p=2824>

初の地方開催となった JSPS-NRCT セミナー。奈良女子大学より林田教授、小野助教、東京大学より今須准教授、関山助教をお招きしての 3 日間は、日本の最先端研究をタイの大学で受けとめる試みであり、“cutting-edge”を見出しさえすればそれが可能であることを示しました。現役研究者であり、機動力を武器にするセンター長ならではの果実でした。



2012 年 6 月 23-24 日、同窓会長のご家族と旅行

<http://jsps-th.org/?p=2874>

タイ北部ペチャブンへ。Dr. Busaba 同窓会長にお招きいただきました。2 年間あちこち方々へ行きましたが、思えば、純然たる旅行は初めてです。Dr. Malee 同窓会理事にもご参加いただき、タイでの最後の慰労と思い出づくりはタイの家族に囲まれてとなりました。本当にありがたかった。コップンマーカップ。

■NSTDA 新研究所を開設

タイ国立科学技術開発庁(NSTDA: National Science and Technology Development Agency)はアセアンにおける有機エレクトロニクス及びプリンテッド・エレクトロニクスのハブとなること目的に、タイ有機プリンテッド・エレクトロニクス・イノベーション・センター(TOPIC: Thailand Organic & Printed Electronics Innovation Centre (TOPIC))を設立した。民間セクターとの共同研究及び商品化の拠点とする予定。所長は、NSTDA 傘下の既存の研究機関である電子・コンピュータ技術センター(NECTEC: National Electronics and Computer Technology Centre)所長が兼任する。同じく NSTDA 参加である他 3 研究機関である遺伝子工学バイオテクノロジーセンター(Biotec: the National Centre for Genetic Engineering and Biotechnology)、金属材料技術研究センター(MTEC: the National Metal and Materials Technology Centre)、ナノテクノロジー研究センター(Nanotec: the National Nanotechnology Centre)への研究施設・資財の提供をするほか、民間企業に対するテイラード研究や大学との橋渡しを行うことを視野に置いている。

(Nation 紙、4 月 10 日)

■災害予知システムへの要請

2004 年、タイ南部を津波が襲い多くの死者が出た。その頃、タイを津波が襲うことを予想している人間はいなかった。2012 年 4 月のプーケットの津波の際、津波警報装置により多くの住民が迅速に避難することができたのは、高くついた教訓のおかげでもある。災害対策についての住民意識の向上が何よりも重要であるという。これに関連して、副首相で内務大臣兼任の Yongyuth Wichaidit は、内務省内に洪水・台風・地滑りオペレーションセンターを設置した。

(Nation 紙、5 月 6 日)

■3 地方大学へのサイエンス・パーク設置に 80 億バーツ

地域の特産品をベースにしたビジネス展開の支援を目的に、科学技術省は 3 つの地方にサイエンス・パークを設置することを計画しており、内閣に対し 84 億バーツの要求を提出した。サイエンス・パークは北部チェンマイ大学、東北部コンケン大学、南部プリンスオブソンクラ大学への設置が計画されており、それぞれの地域特産とはつまり、北部の米、東北部の鶏肉、南部のゴムを示す。これらに関する研究開発・競争力強化が設置目的であり、2013 年に 26 億バーツ、2014 年 27 億バーツ、2015 年 31 億バーツが、科学技術省の描く青写真。

北部サイエンス・パーク提唱者でありチェンマイ大学工学部長 Dr Sermkiat Jomjunyong 准教授は、サイエンス・パークが州政府、民間セクター、教育機関の連携地点となって地域経済を活性化し、科学技術を応用することで、「レッド・オーシャン(過当競争)」にある製品に付加価値を与え、「ブルー・オーシャン(ニッチ、独占的)」商品に替えることができるという。これは 2015 年にアセアン経済連合(AEC)を迎える北部地域にとって大きな力になると期待する。また、チェンマイ大学を拠点として、北部の 7 大学と 30 の工業部門・民間部門の連携も目指す。

この 3 年間のプロジェクトの中で、380 以上の科学技術プロジェクトを設け、その中から少なくとも 60 の研究開発プロジェクトを選抜していくという。これに伴って 560 人の研究者の採用が期待されている。

(Nation 紙、5 月 8 日)

■AIT に関する噂

バンコク郊外パトインタニに所在するアジア工科大学院(AIT)は 2011 年 10 月の洪水により甚大な被害を受け、現在も復旧・復興の途上にありますが、そ

のプロセスは緩慢であるとの批判を受けており、それに関連して以下のような噂が出ている。これに対し、AIT 同窓会長 Thanin Bumrungsap 氏が反論を展開。

1) AIT を現在の政府間組織(≡国際機関)から、過去の形に戻すという要請が上がっている

2) そのために、タイ国政府からの AIT 補助金が現在止められている。

3) 補助金停止は、現在 AIT 内でクーデターが起きているからでもある。

4) 補助金停止は現政権が政府間組織(≡国際機関)である意向を持っているからである。

AIT 同窓会長は、特に 4 番目について、タイ政界を侮辱するものであると指摘したうえで、補助金停止は、現在の新 AIT 憲章の中で、教育省高等教育委員会事務局 (Office of Higher Education Commission (OHEC) under the Ministry of Education) が AIT メンバーから外されており、それが補助金支給のための規則に反しているからであるとし、OHEC を代表とするタイ政府が AIT メンバーから外れているのは、タイ議会による認可が遅れているためであるとして、政府間組織(≡国際機関)としての地位の返上やクーデターの関与を否定している。

(Nation 紙、5 月 29 日)

■タイの教育水準はつるべ落とし

多大な教育予算にも関わらず、タイにおける教育の質は低下し続けている。研究・品質開発財団研究所所長によると。タイの学生の能力は、国際的なテストにおいて、1985 年の「良」から、1998 年には「可」、2000 年には「不良」へ低下しているという。マッキンゼー社の調査によると、特に基礎教育における識字能力及び計算能力の向上が求められるという。タイでは特に遠隔地の学生のスコアが低いという。「学生に薬を飲ませるだけでは何もならない」と、ランシット大学の Witayakorn Chiengkul 准教授は言う。政治経済、認識、行動など国全体をあげて認識を変えていく必要があるという。例えばベトナムにおいては、十分な教材のない学生でも数学・科学において満足のいく得点を得ているが、彼らは総じて勤勉で読書好きだという。

また、政府や首相による改革を待つのではなく、教員一人ひとりがよりよい教育法を求めて研さんを積んでいく姿勢が重要であることも説かれた。

(Nation 紙、6 月 20 日)

日本学術振興会バンコク研究連絡センター の位置



日本学術振興会バンコク研究連絡センター/JSPS Bangkok Office

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand

tel +66-2-661-6533 fax +66-2-661-6535